

法政大学大学院
入学試験問題用紙

試験科目	地域創造インスティテュート 修士課程《一般》	2026年度 春季	試験時間
専門科目			60分

辞書参照 (可・否)

[注 意] 解答は別紙の解答用紙に記入すること。なお、[1]、[2]それぞれ別の解答用紙を使用すること。
また、解答する問題の番号を必ず明記すること。

[1]

日本において人口減少は深刻な問題になっています。国立社会保障・人口問題研究所が発表した「日本の将来推計人口（令和5年推計）」によれば、2050年の日本の総人口は約1億468万人と見込まれています。2020年の約1億2615万人から約2146万人が減少するとされています。生産年齢人口が大幅に減少する一方で、65歳以上の高齢者人口が増加する傾向によるものとされます。

とくに地方での現象が著しく、東京都を除く46都道府県全てで人口が減少すると予想されています。特に地方においては、人口減少と高齢化が同時並行で進行し、東京への人口集中がより一層深刻化すると予想されています。この減少傾向は地域によって大きな差があり、特に東北地方や中国地方での人口減少が顕著になると予想されていますが、なかには30年間で人口の70%以上が減少してしまうという予測がなされた自治体もあります。

この原因には、出生率の低下、地域住民の高齢化、若年層の都市部流出、財政・運営リソースの不足などが挙げられますが、このままほうちすれば効果的な対応策を講じられなければインフラのダウン、生活環境の維持が困難になり、「消滅都市」も生じるに違いありません。考えられる範囲での打開策を自由に論じて下さい。

法政大学大学院
入学試験問題用紙

試験科目	地域創造インスティテュート 修士課程《一般》	2026年度 春季	試験時間
専門科目			60分

辞書参照 (可・)

[注 意] 解答は別紙の解答用紙に記入すること。なお、[1]、[2]それぞれ別の解答用紙を使用すること。

[2]

著作権の関係で掲載いたしません。

図 地域側から見たよそ者性の課題

出所) 敷田麻実(2023)『移動縁が変える地域社会——関係人口を超えて』水曜社、p.27, 図 1-1

この図は、地域側からみた、地域の人々とよそ者の違い、またよそ者の種類・特徴の違いを示したものです。その違いは、地域資源の所有の有無という軸と、商品やサービスについて生産しているのか／消費しているのかという軸で、区分できます。

地域にすむ人々(定住者)は、地域資源を所有し、地域の商品やサービスを生産しています。他方、従来において一般的だった地域にとってのよそ者とは、別荘所有者など(第2種よそ者)や観光客など(第1種よそ者)のように、地域の商品やサービスを生産しない存在でした。しかし近年では、関係人口など(第3種よそ者)という、地域資源を所有しないが、地域の商品やサービスを生産する存在が注目を集めています。

関係人口など(第3種よそ者)が注目されるようになった理由と、地域における関係人口(第3種よそ者)の意義はどのようなものか、あなたの考えを述べてください。また、地域側と関係人口など(第3種よそ者)が、より良い関係性を築いていくためには今後どのようなことが必要か、あなたの考えを述べてください。